



地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所（略称「大安研（だいいんけん）」）は、皆さまの健康に役立つ情報を分かりやすくお届けするため、「大安研ニュース」を発行しています。

目次

大安研ニュース No.17

- ・RSウイルス感染症の流行期が変わった？ 最近の傾向とは ①
- ・健康食品で健康被害!? 違法な製品にご注意ください ②

RSウイルス感染症の流行期が変わった？ 最近の傾向とは

(1) RSウイルス感染症の症状

RSウイルス感染症は2～3歳までにほぼすべての小児が感染することが知られており、その後も生涯を通じて再感染すると考えられます。感染すると、軽症の場合は鼻水や咳（せき）、喉の痛みなどの風邪症状ですが、乳幼児は肺炎や気管支炎など、重症化することがあります。また、基礎疾患を持つ人や高齢者でも重症化する可能性があります。



(2) RSウイルス感染症の原因病原体

RSウイルス感染症はRSウイルス（Respiratory Syncytial Virus：呼吸器合胞体ウイルス）により引き起こされる感染症です。



RSウイルスは風邪の原因となる病原体の1つで、A型とB型の2つの型が存在しますが、症状に明確な違いはありません。

(3) 年々早まる流行時期

新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限な

どの影響で、2020年（令和2年）はRSウイルスに感染する機会も減ったと考えられ、大阪府の感染症発生動向調査でRSウイルス感染症の報告数は激減しました。しかし、2020年を除いて毎年RSウイルス感染症の流行があり、2020年以前と以降で流行状況を比べると、報告数がピークとなる時期は変化しています（表）。ここ数年の傾向として、春～夏に報告数が増加しています。流行時期が変化した理由ははっきりとは分かっていませんが、全国でも同じ傾向となっています。

年	報告数のピーク
2014（平成26）	12月
2015（平成27）	12月
2016（平成28）	10月
2017（平成29）	9月
2018（平成30）	9月
2019（令和元）	9月
2020（令和2）	流行なし
2021（令和3）	5月
2022（令和4）	7月
2023（令和5）	5月（5月現在）

表：RSウイルス感染症に流行がピークとなった時期

(4) RS ウイルス感染症の予防法

RS ウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症と同様に**飛まつ感染**や**接触感染**で感染が広がることから、**予防には手洗い**や**マスク**などの**感染症対策が大切**です。また、RS ウイルスはコロナウイルスと同様に**アルコール消毒が有効**です。今のところRS ウイルス感染症に対する治療薬はないため、発症した場合は症状に応じた治療（対症療法）が行われます。RS ウイルス感染症には実用化されたワ

クチンがまだありませんが、現在、高齢者および妊婦（母子免疫）を対象としたワクチンの開発が進んでおり、近い将来の承認が期待されています。また、早産児や心肺に基礎疾患を有するハイリスクの小児には、予防薬¹⁾の投与も推奨されています。
(ウイルス課)

【参考】

1) パリピズマブ（モノクローナル抗体薬の1種）

RSウイルス感染症の予防に有効な対策



手洗い



マスクの着用



アルコール消毒

健康食品で健康被害!?

違法な製品にご注意ください

(1) 「健康食品」にひそむ危険性

みなさんは「健康食品」という言葉からどんなものを思い浮かべますか？スーパーやコンビニでは許可マークの付いた特定保健用食品（トクホ）や目的に沿った効果が期待できる機能性表示食品をよく見かけます。テレビや新聞では、利用者の体験談を基にして健康に良いことをうたう食品の広告を目にしますね。私たちの周りには実に様々な「健康食品」があふれています。しかし、中には特定の効果が期待できる食品と見せかけて、違法に医薬品成分を配合している製品が存在します。このような製品は「**無承認無許可医薬品**」¹⁾と呼ばれています。昨年はダイエット用ゼリーやチョコレートとして販売されていた製品から国内未承認の医薬品成分が検出される事例がありました。この製



品については類似品も合わせて全国的に流通および健康被害（頭痛、倦怠感、貧血等）が報告されており、現在も引き続き注意喚起が行われています²⁾。

(2) 無承認無許可医薬品への対策

それでは「健康食品」にひそむ「無承認無許可医薬品」を取り締まるために、どんな対策が取られているのでしょうか。例えば、厚生労働省には「医薬品の成分本質に関するワーキンググループ」が設置されています。このワーキンググループでは、製品の原材料となるものについて、医薬品としての使用実態・毒性・麻薬様作用等を考慮し、審議した上で「**医薬品に該当するか否か**」の判断を示しています。専門家による議論の結果、規制が必要と判断された成分について





図：無承認無許可医薬品のパッケージと中身

は「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト」³⁾に掲載されます。つまり、このリストに掲載された成分は、たとえ国内で医薬品として承認されていなくても医薬品成分とみなされることになり、規制の強化につながります。

（3）大阪府で医薬品成分を含む健康食品を発見

大安研では「無承認無許可医薬品」による健康被害を防ぐため、大阪府下に流通する健康食品について検査を実施しています。2022年度（令和4年度）の検査ではダイエット効果をうたった2製品（図）から**ピンポセチン**という成分が検出されました。ピンポセチンはかつて国内で脳の血流を良くする医薬品として認められていた成分ですが、現在は使われていません。摂取により吐き気・めまい・頭痛等の副作用があること、また動物実験において流産や胎児の発達への影響があることが報告⁴⁾されており、米国食品医薬品局は妊娠中および妊娠する可能性のある女性がピンポセチンを摂取しないように警告しています⁵⁾。ピンポセチンは、医師の処方せんまたは指示によらない個人の自己使用によって健康被害や乱用につながるおそれが高いと考えられる成分であり、厚生労働省によって**専ら医薬品として使用される成分本質**として判断されています。そのため、今回検査したピンポセチンを配合している食品は明確に違法（無承認無許可医薬品）であり、取り締まりの対象です。すでに大阪府から報道発表が行われていますので、これらの製品を摂取しないようご注意ください⁶⁾。

（4）おわりに

違法な「健康食品」による健康被害事例は過去

何十年にもわたって多数報告されており、重篤な場合には死亡に至った事例もあります。特に、最近はインターネット通販や個人輸入代行だけでなく、



フリマサイトや SNS を利用した製品の流通が盛んになっており、気がつかないまま違法な製品を購入する危険性が高くなっています。国内外の健康食品に関する注意喚起や健康被害情報は Web サイト⁷⁾で公開されていますので、ぜひ参考にしてください。また、このような製品の中には、国内では許可されていない成分や、十分に研究されていない未知の成分等が含まれている恐れがあります。購入した健康食品について少しでも異変を感じたら、直ちに摂取をやめて医療機関を受診し、最寄りの保健所へご連絡をお願いします。（医薬品課）

【参考】

- 1) 厚生労働省／無承認無許可医薬品情報
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kinkyu/diet/musyounin.html>
- 2) 大阪府／重要なお知らせ／医薬品成分を含有する製品による健康被害（疑い）の発生について（令和4年6月15日）
https://www.pref.osaka.lg.jp/yakumu/important_news/index.html
- 3) 厚生労働省／無承認無許可医薬品情報／（参考）別添1．専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト
<https://www.mhlw.go.jp/content/001059200.pdf>
- 4) National Toxicology Program, Chemical Information Review Document for Vinpocetine (September 2013)
https://ntp.niehs.nih.gov/ntp/htdocs/chem_background/exsumpdf/vinpocetine091613_508.pdf
- 5) FDA STATEMENT, Statement on warning for women of childbearing age about possible safety risks of dietary supplements containing vinpocetine (June 03, 2019)
<https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/statement-warning-women-childbearing-age-about-possible-safety-risks-dietary-supplements-containing>
- 6) 大阪府／令和4年度健康食品買い上げ検査（医薬品成分が検出された健康食品）について（令和5年2月17日）
https://www.pref.osaka.lg.jp/yakumu/kenkouhokuhin/r04_kensyoku.html
- 7) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所／「健康食品」の安全性・有効性情報
<https://hfnet.nibiohn.go.jp/>

大阪府感染症情報センターについて

大安研には「**大阪府感染症情報センター**」が設置されており、府内全域の感染症情報を総合的に解析・発信しています。

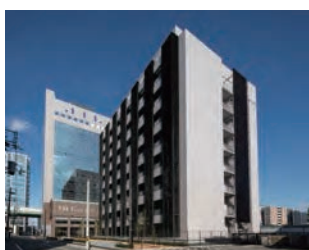
週報：様々な感染症の発生状況を毎週発信しています。
<http://www.iph.pref.osaka.jp/li/020/index.html>

疾患別情報：様々な感染症の情報を発信しています。
<http://www.iph.pref.osaka.jp/li/030/index.html>



大安研新施設の紹介

令和5年1月より、新施設へ移転しました！
 新施設の一部をご紹介します！



新施設外観

北館（奥）と南館（手前）に分かれており、北館は主に執務室、南館は実験室となっています。



OIPH ホール

北館3階にあるホールで、主に会議やイベントの際に使用しています。



実習室

北館10階にあり、外部機関向けの公衆衛生に関する研修などに使用しています。

大安研ニュース バックナンバー

大安研ホームページで、過去の大安研ニュースをご覧になれます！



過去の大安研ニュース

- 第16号：流通食品における食中毒の原因となる細菌の汚染実態調査について / 環境放射能水準調査
- 第15号：2021年日本が結核低まん延国に。もう、過去の病気？ / 食品の放射能検査について
- 第14号：大安研疫学調査チーム（O-FEIT）って何？ / ピロリジジンアルカロイドってご存じですか？
- 第13号：アウトドア活動を行う際にはダニ媒介感染症の対策を!! / 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の品質向上に対する取組



発行者



地方独立行政法人
大阪健康安全基盤研究所

OIPH Osaka Institute of Public Health
 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道一丁目3番3号
 TEL：06-6972-1321 FAX：06-6972-2393
 E-mail：webmaster@iph.osaka.jp
 Web：http://www.iph.osaka.jp/



大安研ホームページには、その他多くのトピックスやイベント案内などを掲載しています